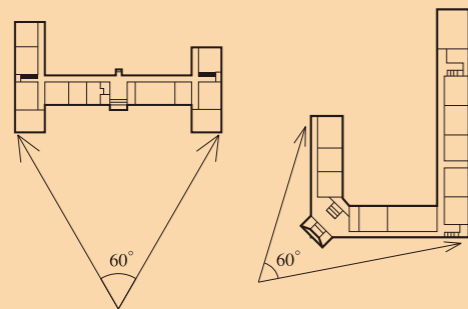


**建物の特徴**

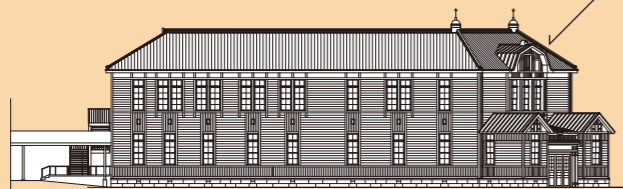
建物は、西洋建築様式を簡略化して応用した洋風木造建築で明治時代末期から大正時代前期にかけての代表的作例といわれており、明治期のナンバースクールの中央入口の左右対称形ではなく隅入りコの字型である。本館の入口は、道路に直接面して明治期の権威的で荘重な表現から機能的で親しみやすいものとなっている。また、玄関正面のマンサード屋根、窓の配置、講堂屋根上の換気用小塔に意匠的工夫がこらされている。

**明治型(参考)と大正型の本館平面**

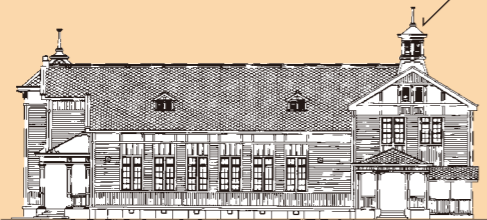
明治型(四高本館)      大正型(松本高本館)



**本館北棟北立面・右側隅玄関上マンサード屋根**



**講堂南立面・屋根の東に換気用小塔**



**あゆみ**

- 明治 32年 第7高等学校として長野県誘致を文部省に請願
- 40年 松本市制施行
- 43年 第9高等学校として長野県誘致の内定をみたが内閣更迭で沙汰済み
- 大正 6年 三たび高等学校の長野県誘致を文部省に請願、内定する。
- 7年 松本市に高等学校設置決定。松本市は、敷地2万坪現金10万円、工事費10万円寄付
- 8年 松本高等学校設立(4月)、9月11日松本中学校校舎を仮校舎として開校。文科甲乙、理科甲乙計4組1学年定員160名
- 9年 県町に校舎(本館)落成
- 11年 講堂が建てられ全校舎落成
- 昭和 6年 満州事変おこる。
- 12年 日中戦争おこる。
- 16年 太平洋戦争おこる。
- 19年 通年学徒動員で授業全面停止
- 20年 8月15日終戦、8月21日授業再開
- 22年 教育基本法、学校教育法公布。6・3・3・4制施行。
- 24年 国立学校設置法により国立新制大学発足。長野県下の高等学校、専門学校7校を統合して信州大学設立。松高校舎は信州大学文理学部となる。
- 25年 3月第29回卒業。松本高等学校閉校。31年間の卒業生は、約5000人
- 42年 信州大学の学部再編により文理学部が理学部と人文学部に分かれ旧松高校舎は、人文学部校舎となる。
- 48年 4月人文学部が旭町キャンパスに移り、校舎は閉鎖される。この頃から保存運動おこる。
- 52年 3月松本市は、建物及び敷地の一部を約7億円で国から買い取る。文化財として保存と活用を決め、以後施設の補修等実施
- 54年 10月1日『あがたの森文化会館』として開館。「あがたの森公民館」「あがたの森図書館」を併設
- 56年 2月2日、本館、講堂とも長野県宝に指定される。  
7月1日「旧制松本高等学校記念館」開設。校舎内で松高時代の資料を公開
- 58年 3月、松高時代から60年余の歴史をもつ信大思誠寮が移転となり、取り壊される。
- 平成 5年 7月「旧制高等学校記念館」が本館東側に新設開館
- 13年 3月、講堂保存修理工事完了(工期平成10年度~12年度)
- 17年 8月、本館保存修理工事完了(工期平成14年度~17年度)
- 19年 6月18日、本館及び講堂が重要文化財に指定される。
- 30年 講堂、本館の耐震補強工事に着手

**交通案内**

タウンスニーカー: JR松本駅バス停から①東コース「旧松本高校」下車  
 バス: JR松本駅前バス停から北市内線東廻り「秀峰学校前」下車、徒歩2分  
 自動車: 長野自動車道松本インターチェンジから約20分



松本市教育委員会  
 あがたの森文化会館  
 (あがたの森図書館)

〒390-0812 松本市県3丁目1番1号  
 電話0263-32-1812 FAX0263-33-9986

**重要文化財  
 旧松本高等学校**

—大正ロマン漂う校舎—



本館 正面全景(西北より)



講堂 全景(西南より)

重要文化財	旧松本高等学校 本館、講堂	敷地面積	30,634.00㎡(現あがたの森公園面積)
指定年月	平成19年6月18日	建物面積	延3,611.11㎡(附属建物を含む)
所在地	松本市県3丁目1番1号	本館	2,486.80㎡
		講堂	960.92㎡





大正14年頃の航空写真

## 旧制松本高等学校

旧制高等学校は、明治27年の高等学校令によってそれまでの高等中学校から高等学校に改称し明治41年までに一高から八高までのいわゆるナンバースクールが開校となった。大正時代に入ると、明治末期から成長した中流階級の高等教育への要求に応えるため、大正7年の新高等学校令により松本、新潟、山口、松山を始めとする地名を冠した高等学校が全国各地に開校された。

松本では、明治32年から20年の歳月をかけて高等学校の誘致活動を展開し、大正7年設置が決定となり、敷地2万坪、現金10万円、工事費10万円を寄付した。敷地は、旧城下町の市街地から少し東に離れた場所が選ばれ、松本駅から校舎に向かう道は拡幅された。大正8年9月今の史跡松本城の二の丸にあった松本中学校東校舎を仮校舎として開校し、翌9年8月に本館、11年8月に講堂が県の地に誕生した。

松本高等学校は、戦後の学制改革により廃止となるまで多くの人材を輩出し、唐木順三、白井吉見、北杜夫、辻邦生らのなじみ深い文学者もこの学び舎で青春を謳歌していた。昭和25年3月の卒業式を最後に松本高等学校は、新制大学(現信州大学)に生まれかわり31年の歴史に終止符がうたれたが、この間約5000人の卒業生を送り出している。校舎は、昭和25年から信州大学の文理学部・人文学部校舎として昭和48年まで使用されたことにより、全国的に旧制高等学校の遺構が少なくなっている中で、当時の状況が最も良好に保存されている唯一のものといわれている。

このため信州大学が旭町キャンパスへ移転した後、市民や同窓会の強い願いによってヒマラヤ杉の並木とともに保存された校舎は、大正時代の代表的木造洋風建築で、学校建築史上貴重な建造物として、平成19年6月18日重要文化財に指定された。

大正デモクラシーの思想を反映した本館と講堂は、現在図書館も併設されたあがたの森文化会館として、隣接の旧制高等学校記念館とともに広く市民に親しまれている。またかつてのキャンパスは「あがたの森公園」として市民の憩いの場となっている。

## 復元された校長室

校長室の広さは、4間×4間の16坪であり、小さな会議が開けるようなゆとりがある。旧制高等学校の校長は、文部省によって選任され、かなりの権限を有していたが、その教育は、文部省つまり国家の意向とは異なり、校長や教師そして生徒の自覚によって、自治と自由を重んじる先進的なもので、いわば自由・平等・友愛の理念が息づく学園であった。

松本高等学校は、大正8年9月に開校し、校長室のある本館が完成したのは、大正9年8月であった。初代校長茨木清次郎は、在任期間2年6ヶ月この校長室での執務は、1年2ヶ月に過ぎない。大正10年9月に特別教室棟が、大正11年8月に講堂が完成し、落成祝賀式を行ったのは、第2代校長大渡忠太郎であった。ヒマラヤ杉(現在59本)の植樹など、植物学者としての才覚を活かした造園に取り組んで高原の学び舎という環境を造成し、自由闊達な校風の創成に力を注いだ大渡校長の功績は大きい。

4代校長のあたりから、のびのびとした松高にも激動の時代を反映した左翼思想事件などの様々な事件も起き、校長にとっての苦悩の時代に入るのであるが、校長室の椅子に座ってかつての松高時代を偲び、何かを感じ、そして学び取るようにしたい。

## 復元された普通教室

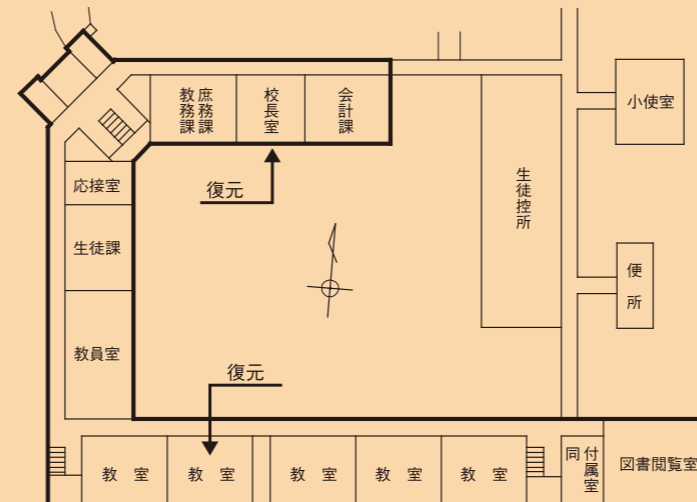
この教室の大きさは、木造建築の基準である4間×5間で、戦前の小・中・高校の普通教室の標準の広さであり、現在の教室から見れば、やや狭いと言えよう。クラスの定員は、40名であるが、昭和9年から13年までの入学者の定員は、経済不況を考慮して30名に減らされている。

松本高等学校のクラス編成は、文甲・文乙・理甲・理乙の4クラスであったから、普通教室は、本館の1階に5教室、2階に7教室の12教室が設置されている。

日本の学校建築では、明治の末ごろからは、保健的見地から普通教室を南面させるよう、次いで東面させるように指導されている。従って隅入りコの字形の本館の平面は、この原則が基本に設計されている。

明治になっての日本の学校教育では、学業成績による順位付けが重視され、教室の座席も成績順で決められることも多く、その伝統が維持されていた高等学校もあったようだが、松本高等学校では、氏名の五十音順で座席が決められていた。小さい奴が後に隠座し、大きい奴が最前列で鎮座したり、ちぐはぐでユーモラスな風景が感じられた。

## 初期(大正13年)の教室配置



復元された校長室。威厳を漂わせる。



復元された教室。木製の机が並び、裸電球が1個下がっている。

## シャンデリアの復元等で美観が一新された講堂ホール



講堂ホールの広さは、約11間×9間の約99坪(約330㎡)である。80数年の歴史のなかでシャンデリアや地窓金具等が戦争時の金属供出などで失われたが、シャンデリアは古写真から、地窓金具は、設計図と工事中に地中から発見された金具により復元された。



発見された講堂地窓